令和４年度　自己評価表　（全日制）

松山南高等学校（全日制課程）
学校番号（２１）

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く　心を耕し　言葉を磨け

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒のキャリアデザイン能力の育成と自己実現の積極的な支援	１日平均家庭学習時間： １・２年生は、３時間以上が50%以上、３年生は、５時間以上が50%以上。(A:+50% B:+40% C:+30% D:+20%)	C	６月調査、１年生３０%、２年生１７%、３年生７%。１０月調査、１年生１５%、２年生１９%、３年生３１%。１年生は高校生活に慣れ、減少傾向に。２年生は微増。さすがに３年生は増加となる。年々家庭学習時間は減少傾向にある。	課題の出し方や提出方法を都度確認しながら、学習時間を確保させたい。昨今の生徒気質である時間をかけずに学習に取り組む姿勢も加味しながら、課題研究にかける時間調査を始め、多角的な学習時間調査となるように努めたい。
		現役生の国公立大学合格者数：２５０人以上 (A:+250 B:+230 C:+210 D:+200)	B	3月23日時点での合格者は246名。	入試制度の変化や多様な選抜方法に対応できるよう、総合的な力の育成に努める。
		現役生の難関国立大学合格者数：２０人以上 (A:+20 B:+15 C:+10 D:+5)	C	3月23日時点での合格者は10名（北海道大学1名・名古屋大学3名・京都大学1名・大阪大学1名・神戸大学3名・九州大学1名）。	高い達成目標を設定し、その目標や適性に応じた個別指導を充実させる。
		全国模試平均偏差値：６０以上 (A:+60 B:+56 C:+54 D:+52)	C	進研模試で1年生59.0(3回) 2年生58.2(3回) 3年生文系56.3 理系51.6(5回)。	個別最適な学びを念頭に、ICTの活用も含めて指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：９０%以上 (A:+90 B:+86 C:+84 D:+82)	A	92%	最終学年時の最終目標に対する段階的な活動目標を明確にして活動を更に充実させる。校内施設の大幅改修に対して活動環境（場所と時間）を確保していく。
		体育部において四国大会出場６部以上、全国大会出場４部以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	A	全国大会６部、四国大会10部出場。	活動目標を明確（段階的な目標の設定）にし、皆が目標を共有できる環境を作りつつ、特に団体種目において更に上位大会に進出できるように努める。
		県高校総文祭優秀賞：６部門以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	B	美術・工芸、文芸詩、放送ビデオメッセージ、自然科学の4部門。	活動目標を明確（段階的な目標の設定）にし、皆が目標を共有できる環境を作りに努める。
豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	先進的なＳＳＨの取組による新しい価値を創生する国際競争力を持った生徒の育成	全国レベルの科学コンテスト入賞数：１０件以上 (A:+10 B:+8 C:+6 D:+1)	A	全国レベルの科学コンテスト入賞数：36件 （参考：令和３年度は32件、令和２年度は12件）	アイデア系コンテストへの応募を増やし、分野を横断して新しい価値を創生する課題研究へと深化させる。
		理数科生徒の総合選抜型入試及び学校推薦型入試合格者数１０人以上 (A:+10 B:+8 C:+6 D:+1)	B	理数科生徒の総合選抜型入試・学校推進型入試合格者数11名となった。	これまでの総合型入試や学校推薦型入試においてどのような生徒が合格しているのかを分析し、次年度に役立てる。
		創作活動や各種コンテスト等へのチャレンジ：各生徒１件以上	B	３年生は各種コンテストに一人１件以上応募した。 １、２年生は研究成果がまとまっている班は応募した。	出品計画通りに出品できていない班もあったので、出品計画を綿密に立てるとともに、夏休み中の論文作成指導を強化する。
	心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：９９%以上 (A:+99 B:+98 C:+96 D:+94)	C	１月末時点、９７．３%。コロナウイルス関連の出席停止や公欠が多く、出席率が良くなる反面、その影響で悩みを抱えたりする心の病を患う特定の生徒が複数存在した。	コロナも終息を迎えると思われる。コロナ後の生徒の状況、心境に細心の注意を払いながら、接していきたい。出席率も大切だが、欠席生徒へのフォローを周知徹底したい。
		重大交通事故発生件数：０件 (A:0 E:+1)	B	入院に至るような重大事故は発生していないが、軽微な事故報告は例年並みであった。	事故防止の最善策は、時間と心にゆとりを持つことだと理解させ、交通マナーも含め指導していきたい。
		いじめはどこでも起こり得るとの認識に立ち、早期に発見し解決する。	B	いじめと認知されるような事案は発生しなかった。	ＳＮＳや「いじり」に対して、なぜ配慮が必要なのかという根本的課題について理解させ、実践できるよう啓発を続けていきたい。
		「オール南高」の意義を全校生徒が理解し、定時制・砥部分校と共有する。	B	新型コロナウィルス感染症対策のため、積極的な交流はできなかったが、芸術文化発表会において、定時制・砥部分校との交流の機会を設けることができた。	文化祭や芸術・文化発表会などの行事を通して「オール松山南」の意義を共有していく。
働き方改革	働きがいと仕事量のバランスのとれた職場環境の形成	ストレスチェックを指標として、仕事量とコントロール、上司と同僚の支援、総合健康リスクを健全に保つ。	C	ストレスチェックは、改善すべき大きな問題点はなく、昨年度同様比較的評価できる結果であったが、教職員健康管理医から超過勤務の教職員が多いと指摘を受けた。	業務削減と適材適所の校務分掌の実施により勤務時間外在校等時間を減らし、仕事環境の改善整備の即時実行により心の健康を保つ。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。